



熊本地震
別府市での取り組み
～つながりのなかで～

別府大学 小野貴美子

自己紹介

～別府市とのつながり～

平成7年～現在：文部省スクールカウンセラー配置
事業で別府市内の中学校、高等学校に勤務。

平成17年～24年：別府市総合教育センターに勤務。
市内小中学校の児童生徒、保護者
教員の相談、教員研修を行う

平成24年～現在：別府大学に勤務。

別府市

- 人口 120,163人 (H28.6.30現在)
外国人留学生が多い。
- 面積 125.34km² (東西13Km 南北14Km)
- 自慢 源泉総数 日本一
総湧出量 日本一
海の幸、山の幸、美味しい！安い！

児童養護施設 3 園
母子支援施設 2 園

4月16日(土) 1:26の地震 (M7.3)

- 場所

別府市・由布市：震度 6 弱

豊後大野市・日田市・竹田

大分市・佐伯市・津久井

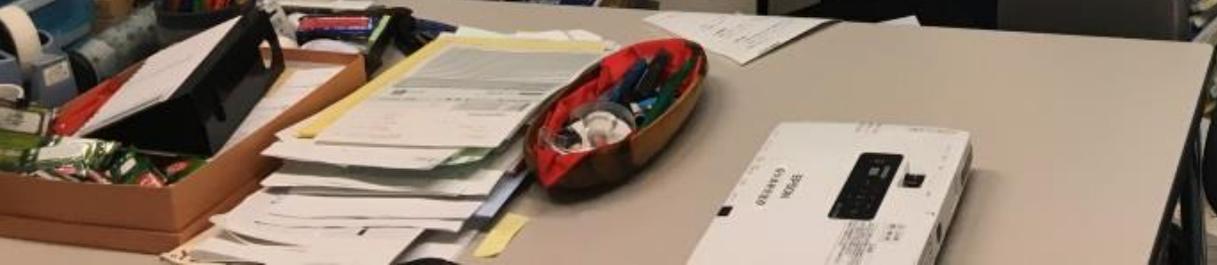
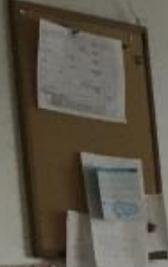
震度 5 強

・**震度 5 弱**

地域差

音

- 絶え間ない警報音







別府市被害状況

平成28年熊本地震の記録（第1次報告）別府市 より

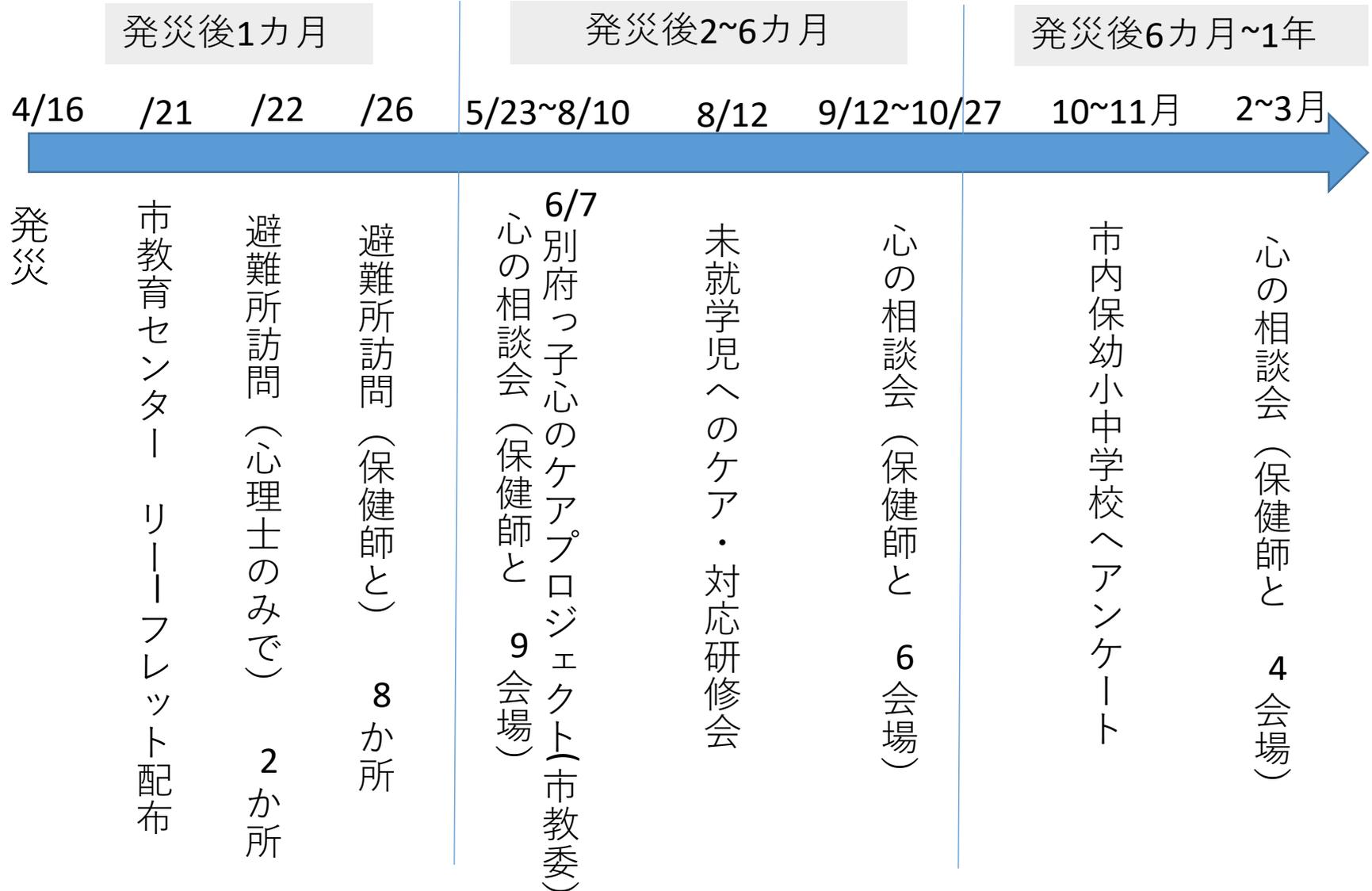
- 人的被害 軽傷 7
- 建物等の被害 7, 5 8 9
- 最大避難者数 5, 6 9 1 人
延べ 1 2, 1 6 7 人

☆公立幼小中学校は通常どおりだった。

別府市 小学校14校 + 幼稚園14園

中学校8校

これまでの取り組み



<園児・児童・生徒のみなさんへ、そして先生や保護者のみなさまへ>

災害を体験すると、私たちはさまざまなストレスにさらされます。

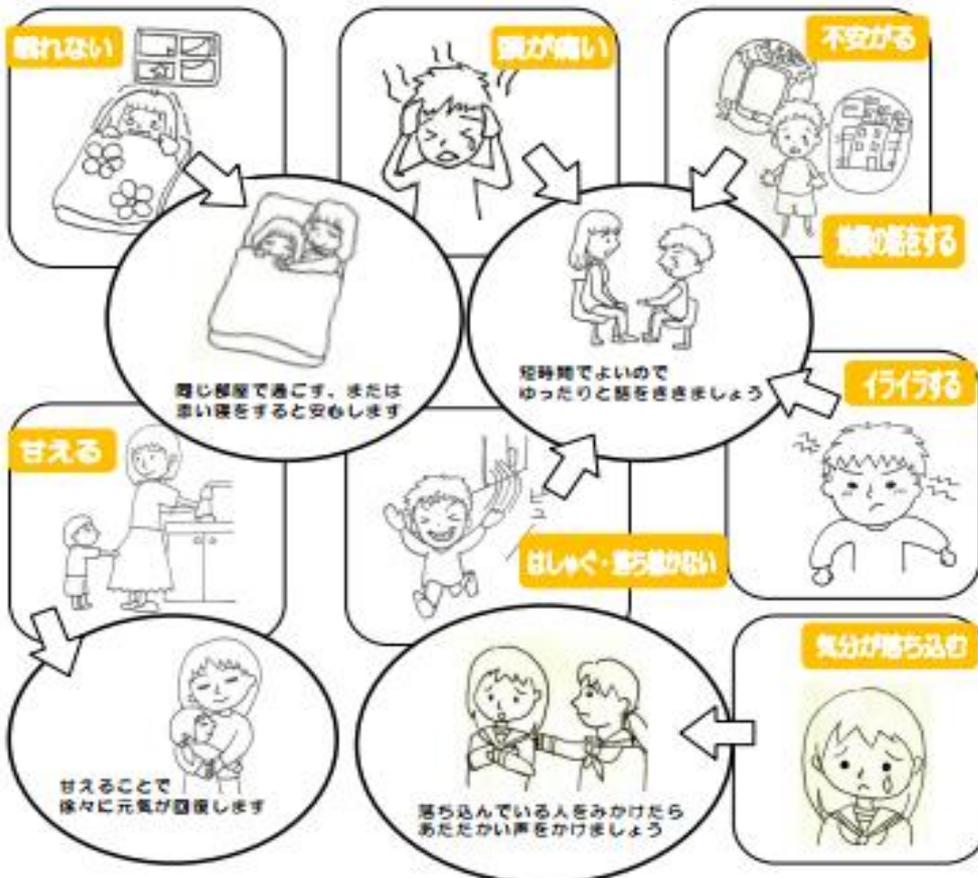
そのストレスが原因で、**いつもできていたことが急にできなくなる**ことや

身体の具合が悪くなることがあります。

でもこれは、誰にでもある **自然な反応**です。

いつもの生活をこころがけることで、だんだん落ち着いていきます。

こんなときどうするの？



この他にもさまざまな症状があり、人によって異なります。

引用文献：静岡大学「支援者のための災害後のこころのケアハンドブック」

ご心配な場合は、別府市総合教育センターまでご相談ください。(TEL 0977-26-0812)

2日後 4月18日（月）
リーフレット作成依頼

別府市総合教育センター
（臨床心理士4名、

キャンディデイト4名）

21日（木）完成
市内幼小中学校へ配布
HPよりダウンロード可能

5日後 4月21日（水） 避難所訪問要請

別府市危機管理課より県臨床心理士会へ協力要請
「市内避難所の子どもが不安定。早急に支援したい」

⇒県士会HPを通じて人集め：22日～31日分
4人～11人/日 確保

6日後 4月22日 (木) 避難所夜間訪問 (心理士のみ)

臨床心理士3名ずつ2グループで、
避難所2カ所訪問 (19時～21時30分)

目的：避難所での子どもの状況把握

結果：避難者の減少。子どもを抱えた家族も少なかった。子どもは持参した絵本やゲームで遊び静か。翌日より両避難所とも閉鎖予定。

⇒子ども支援は学校で行う。翌日以降の訪問は一旦中止。

10日後 4月26日（火） 避難所夜間訪問（保健師同行）

4月26日

別府市保健センターより県臨床心理士会へ協力要請
「避難所訪問の保健師と同行訪問してほしい。必要な方には面談をお願いしたい。」

同日

市内の全避難所8カ所を保健師2名と心理士1～2名の
チーム5組で訪問。（19時～23時）

保健師の健康観察に同行。

⇒継続相談の必要な方がおらず、心理士訪問は今回
のみ。

2回の避難所訪問で学んだこと (42か所5691人...→5/8全閉鎖)

- 避難所がいかにストレスフルな場所であるかということ

生活時間の違う人たちの集合体

乳幼児から高齢者まで同じ場所で寝泊まり

障害を抱えた人達への対応は？

ご近所だからできること、言いにくいこと

- 役所関係の方々の大変さ、ご苦労

保健センターと臨床心理士の協働 心の相談会

5月6日

保健センターから連絡

- * 気になる高齢者が数名
- * 高齢者ご自身の不安
- * 不眠や不安を訴える乳幼児の母親が増加



地区公民館6か所と保健センターで相談会(5~8月,9~10月)

育児相談会 (6~8月)に地震関連相談を併設

(予約不要、2時間)

広 報（保健センター）

市報

新聞

高齢者に対して

- ・ 地域包括支援センターおよび民生委員の総会時にチラシ配布と気になる方への声かけ
- ・ 老人クラブへのチラシ配布

乳幼児に対して

- ・ 乳幼児健診や赤ちゃん訪問の際にお知らせ

「こころの健康」を保つために

地震などの災害の後には、どなたもストレスを感じ、
こころも体も疲れやすくなります。

地震後に、気分が沈みがち
イライラする
眠れない
などつらい気持ちや不調が続いている方は
おられませんか？



臨床心理士（大分県臨床心理士会による）が、
お話をお聴きします。

本人に限らず、ご家族の方など、どなたでも
相談できます。ぜひご参加ください。

以下の日程で、相談を受付いたします。
予約なし、無料です。

場所	日程	曜日	時間
別府市公会堂	平成28年5月26日	木	14時から16時
北部地区公民館	平成28年5月31日	火	
西部地区公民館	平成28年5月31日	火	
中部地区公民館	平成28年5月23日	月	
南部地区公民館	平成28年5月30日	月	
朝日・大平山地区公民館	平成28年6月3日	金	10時から12時
別府市保健センター	平成28年6月8日	水	
	平成28年7月13日	水	
	平成28年8月10日	水	

(問合せ先) 別府市健康づくり推進課 21-1117

別府新聞

【別府新聞社】大分合同新聞別府支社
0977-22-2121 FAX 25-1230

杵築新聞

【杵築新聞社】大分合同新聞杵築支局
0978-62-2653 FAX 64-0078

日出新聞

【日出新聞社】大分合同新聞日出支局
0977-72-2712 FAX 28-1065

とことん地域密着

携帯でピッ!



日本医療機能評価機構認定病院
呼吸器外科、呼吸器内科、消化器外科、内視鏡外科、消化器内科、循環器内科、外科、アレルギー科、麻酔科(松川美樹)

医療法人 顕秀会

石垣病院

別府市実相寺1-4(中央保健所下)

☎(0977)66-7557

城下カレイの限定ミニ饅石を味わう来店者=日出町日出の的山荘



別府市 GWの入り込み調査

観光客などでにぎわった「GWカーニバル」の会場。遠のいた客定を取り戻すため、観光関係者が一丸となって「別府は元気」をPRしている=4日、別府市の北浜公園



観光施設45%減 宿泊客は33%減

別府市は17日、ゴールデンウィーク(GW、4月29日～5月8日)の入り込み調査の結果を発表した。市内と市近郊の観光施設(10施設)を訪れた観光客は前年同期比で45.7%減、旅館・ホテルの宿泊者数(29施設)は33.1%減った。4月14、16日の熊本・大分地震の影響を受け、厳しい結果となった。

観光施設の来場者数は計16万8183人で前年に比べて約14万2千人減少した。最大で10連休と曜日の影響がよく、天候もおおむね良好だったが、城島高原パークの広報担当者は「震源地に近いという印象や高速道路の不通が大きく影響した」と見る。

一方で「客数は減ったが客単価は高かった」(アフリカンサファリ)との声や東九州道の北九州―大分―宮崎が結ばれ、沿線地域からの観光客が増えたという施設もあった。

宿泊者数は計3万370

高速道路不通 地震の影響厳しく

1人で前年より千人減った。マセルが相次ぎ、全ての施設でた。市観光課は震後に価格をインターネットで強化するなどを取った施設が入る動きあり。

エリア別で、地区が前年同減、北浜・中6%減、その7%減だった。利用交通機路、船舶、航いずれも減少、伊藤慶典O、リズム部長はである福岡県でも早く観せるよう、関して取り組んでいる。

地震による心身の不調話して

別府市が健康相談会

別府市は、熊本・大分地震の影響で心身に不調を感じている人を対象に「こころの健康相談会」を開く。23日から各地区公民館などを巡回して開催する。無料。

23日から公民館など巡回

「避難所で『眠れない』」「常に不安」など、不調を訴える人がいた。時間をたつてから強い恐怖がよみがえる心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症する可能性もある。本人に限らず、家族の人も気軽に相談してほしい」と話している。問い合わせは同課センター

日程は次の通り。

23日	中部地区公民館
26日	市公会堂
27日	南部地区公民館
28日	北部地区公民館
29日	西部地区公民館
30日	公民館
31日	朝日・大平山地区公民館
1日	朝日・大平山地区公民館
2日	朝日・大平山地区公民館
3日	朝日・大平山地区公民館
4日	朝日・大平山地区公民館
5日	朝日・大平山地区公民館
6日	朝日・大平山地区公民館
7日	朝日・大平山地区公民館
8日	朝日・大平山地区公民館
9日	朝日・大平山地区公民館
10日	朝日・大平山地区公民館

80人吟詠

淡窓伝 詩道会

淡窓伝光靈

堀豊美会長

クール(大分)

援)が杵築市

市内の16公

人が参加し、

で披露した。

工事の安全を祈願

別府の一燈園が

が出席。神事があり、工事の安全を祈願した。

施設は鉄筋コンクリート

表彰状を受け取る九電別府営業所の龍泉寺壽隆所長

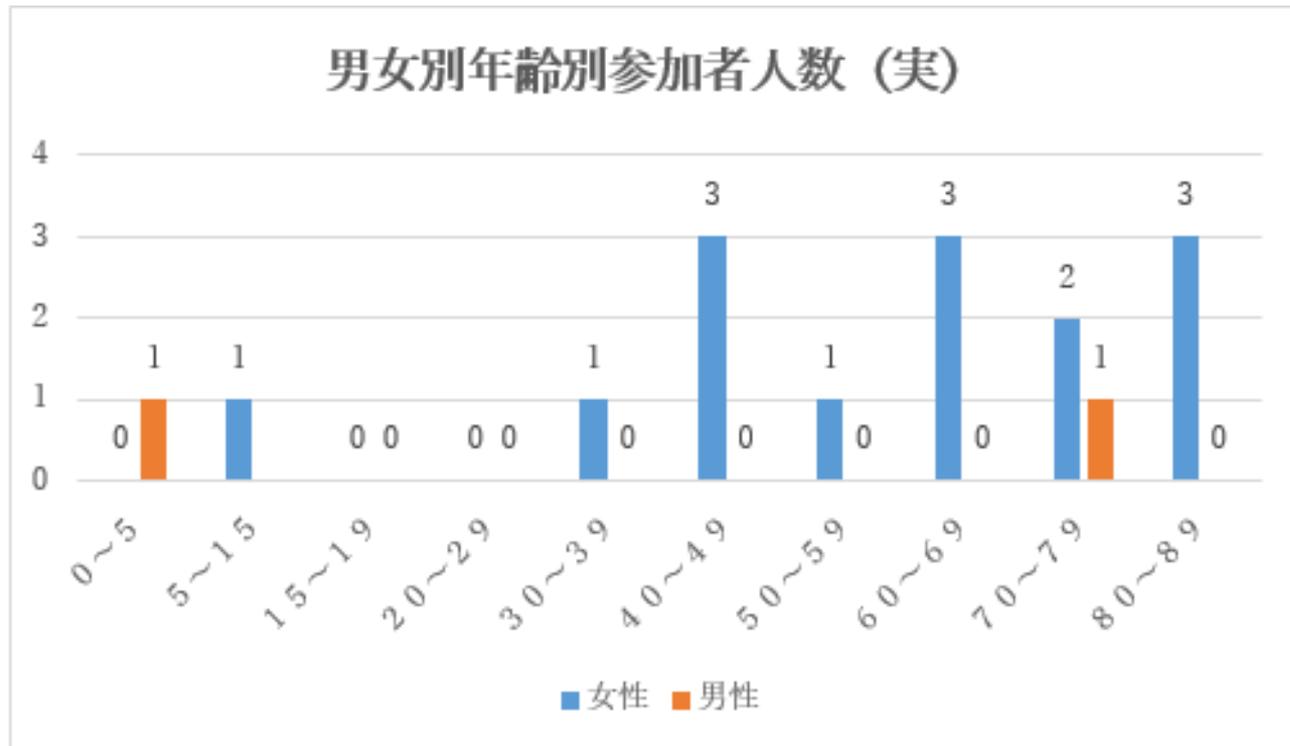
配電事業所・別府営業所と電の井バスOB会に

た。

心の相談会

- 1 クール：（H28.5.23~8.10） 9会場9回 相談者数13人
2 クール：（H28.9.12~10.27） 6会場6回 相談者数5人

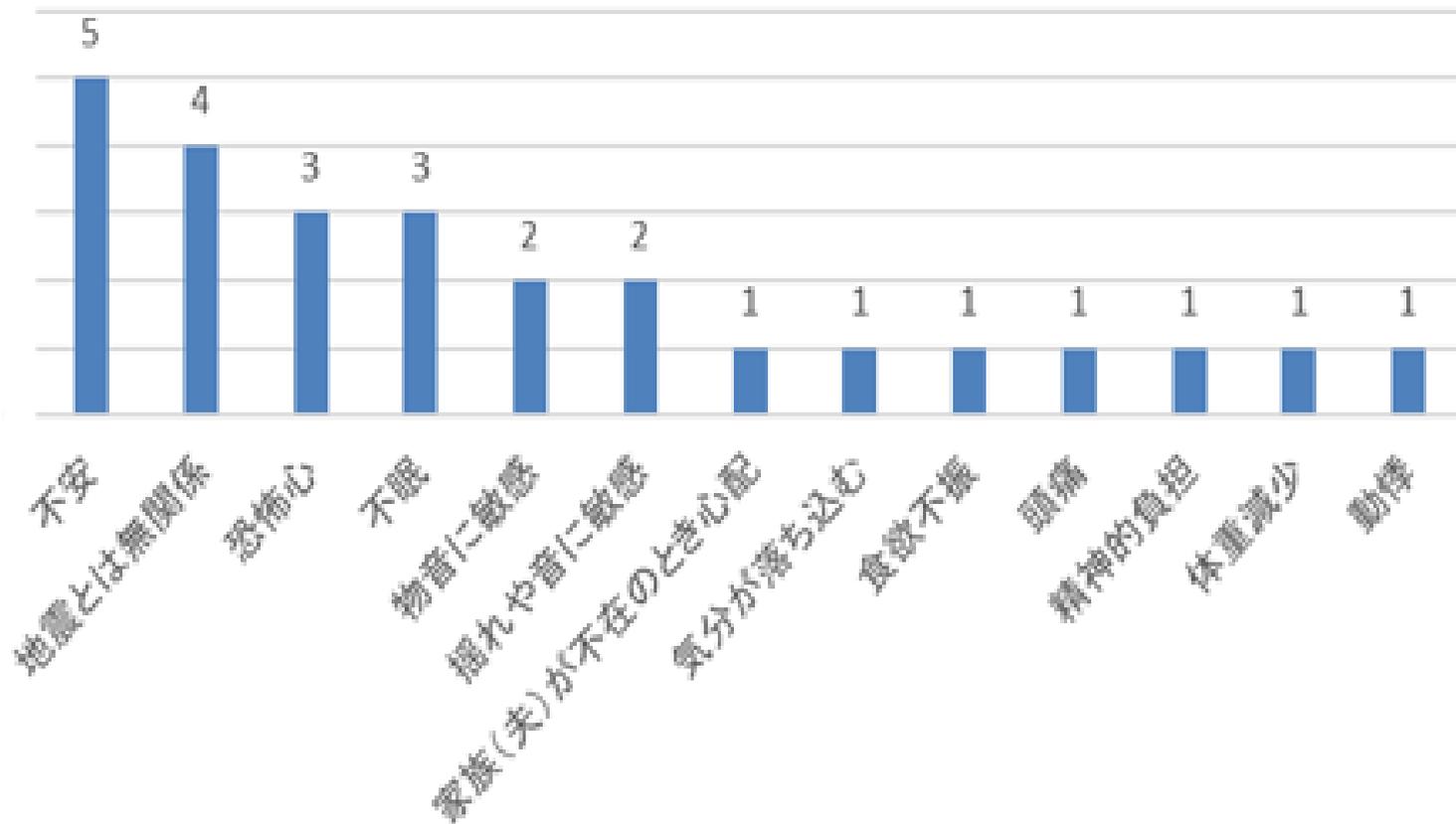
1) 参加者年齢



心の相談会

2) 相談内容

相談内容(延)



別府っ子心のケアプロジェクト

6月7日発足

概要：

学校や行政関係者等で構成するプロジェクトチームを設置し、アンケート結果を踏まえた今後の取り組み等の協議、及び、園児・児童・生徒の心のケアに関する具体的な取り組みを推進する。

委員：

別府市教育庁教育参事

別府市スポーツ健康課

別府市学校教育課

別府市立幼小中学校校長

別府市立小中学校養護教諭

別府市総合教育センター

別府市健康づくり推進課（保健センター）

PTA会長

別府大学（別府大学教育心理相談室との地域連携）

別府っ子心のケアプロジェクト活動

* 8月12日 未就学児へのケア・対応研修会

講師：湯野貴子先生（臨床心理士 日本プレイセラピー協会
日本ユニセフ協会）

保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ、小学校等関係者 52名参加

* 10月 市内保育所・幼稚園・小学校・中学校 アンケートの実施と分析

（別府大学教育心理相談室協力）

アンケート結果

【幼稚園児 500人】

地震による影響は少なく、性差もない

園による違いも見られない

地震の想起は小さな音への過敏性や心身の不調に影響

【小学校 4853人】

地震の影響が残っている子どもが1割程度いる

女児 > 男児

学校間の差が見られるが、被害状況との関連は不明

地震の想起は小さな音への過敏性や心身の不調に影響

【中学校 2637人】

全体的に問題のある生徒は少ない

女子の方が若干ネガティブ気分が高い

地震の想起はイライラや小さな音への過敏性、心身の不調に影響

まとめ

- 何もかもが初めての事ばかり。東日本大震災後のケアのことなど、話を聞いたり、研修を受けていたのが、具体的な取り組みにつながった。
- 被災の地域差がうまく作用して、近くの人へ支援できたのではないか。被害をあまり受けていない人が被害を受けた人を支援できた。
- これまでの人と人とのつながりで、すべてが運ばれていった。そして、新しいつながりもできた。その中で心理士の専門性を改めて考える機会になった。
- これまでのつながりはより太く、新しいつながりも大切にしていきたい。
- 暖かいご寄付、資金集めやロジスティクスをしてくれた仲間が活動の大きな支えだった。
- 様々な取り組みが良い機会となって、福祉行政や教育行政の改善や見直しにつながっていけばと願う。



暖かいご支援ありがとうございました